

# ストーリーで巡る 御崎地区の歴史文化

## ストーリー 1 塩業の歴史を今に伝える－東浜塩田－

全国に名をはせた赤穂の塩。赤穂城の東西に整備された東浜・西浜塩田の面積は、最終的に約 420ha を誇りました。御崎は江戸時代前期に新浜村として開発され、東浜塩田における塩の一大生産地だったのです。

塩田の廃止後は住宅地や県立公園になりましたが、製塩資材の運搬に利用された水



水尾跡

路（かずら）や取水口周辺の堤防、そして平地を塩田とするため山の斜面に築かれたまちなみみや、細い路地が当時の面影を残しています。また、江戸時代後期に日本最大の塩田地主であった田淵家より寄贈された資料は、隣接する赤穂市立田淵記念館で展示、公開されています。



坂のまち 御崎

## ストーリー 2 御崎の信仰

伊和都比売神社は浅野長矩が岩礁「大園（現在の豊岩）」にあった祠を遷し建立したもので、比売神（姫神）はいつしか縁結びの神となり、現在は近隣のスポットが「恋人の聖地」の認定を受けて人気を集めます。

御崎地区には、伝統的な大師信仰が残されていて、斜面地に広がる住宅地を中心に、8か所の大師堂が作られています。このほかに民家それでも崇拝されており、毎年4月には「お大師まいり」が開催されます。

このほか江戸時代の絵図にも描かれた兵庫県内一低い山「唐船山」は、文字通り中

国の大「唐」からやってきた船がここで難破し、その後、島になったという伝説があり、足踏みすると内部が空洞のような音が聞こえることから、現在も船に積まれていた財宝が埋まっているとの伝説が残されています。



お大師まいり

## ストーリー 3 景勝・赤穂御崎

赤穂御崎は、江戸時代に司馬江漢が訪れ、「播州名所巡覧図絵」にも描かれるなど、「風景奇絶」と評された景勝地です。しかし瀬戸内海を活かした景観・観光地としての開発はすべて順調にいったのではなく、先人の労苦の賜物であったことが「御崎開発記念碑」に刻まれており、その発展には江戸時代からの長い歴史があります。



尾崎・大塚古墳  
6世紀後半から7世紀にかけて築かれた、直径 20m の墳丘をもつ横穴式石室墳。

東浜塩田取水施設跡  
近代の東浜塩田において、濃度の高い海水を取り入れるために山を超えて海岸から取水した施設。

御崎レストハウス

赤穂市野外活動センター



桃井ミュージアム  
幕末から明治にかけて焼かれていた「日の露火燒」を復活させた桃井氏が、平成23(2011)年に開館した美術館。露火燒のほか赤穂綱等も展示している。

瀬戸内海（瀬戸内海国立公園）  
昭和9(1934)年に霧島、霧島とともに日本で初めて指定された国立公園。面積 90 ha と国内最大。多島海景観が特徴。



ここに掲載したストーリーは『赤穂市歴史文化基本構想』の成果をまとめたものです。  
赤穂市日本遺産  
音声スマートガイド  
JAPAN HERITAGE Audio Guide  
日本遺産観光スポットの魅力を音声でご案内！



400m 令和4年2月 赤穂市教育委員会